

1098

四

夜
間
鳴

附錄第三篇

軍鳩研究報告

目次

第一章	夜間鳩訓練計画
第二章	夜間鳩訓練實施概要
第三章	夜間鳩ニ對スル所見
第四章	將來ニ對スル研究

第一章 夜間鳩訓練計畫（大正十三年度）

一、目的

幼鳩（大正十三年三月）ヲ以テ五十軒以内ニ於ケル夜間通信整備
日数並ニ性能ノ研究
編成

三號（仮設）鳩舎

同鳩舎ニ移殖セル鳩

軍鳩員

二、期間

第一期馴致ヨリ暮曉飛翔終了迄約一ヶ月間

三、準備

鳩舎各部ノ改造

ハ、到着台トラップノ擴大

ハ、屋上並ニ到着台識別塗粧

ハ、燈火ノ準備

ハ、老線遮蔽幕ノ取付

約四。

三（常備一）

第二期通信訓練（五十軒以内）第一期終了時ヨリ明春蕃殖期迄

五、訓練
當道寧嶋兵控所、設置（仮設）

第一期
第二期

別表ニ依ル

第一期（大正十三年五月十八日訓練開始）

開始日	科目	時間	場所	備考
五月一日	射撃	午前八時	射撃場	入会員は、午前八時より午後四時までは、入会費を徴せらる。
五月二日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月三日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月四日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月五日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月六日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月七日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月八日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月九日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十一日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十二日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十三日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十四日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十五日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十六日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十七日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十八日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月十九日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十一日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十二日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十三日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十四日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十五日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十六日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十七日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十八日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月二十九日	射撃	午前八時	射撃場	同上
五月三十日	射撃	午前八時	射撃場	同上

第二期 (大正十三年七月一日刻練開始)

開始時刻	種別	量	備考
第一日	全	五斤迄放鳩	全
第二日	全	五斤迄放鳩	全
第三日	全	五斤迄放鳩	全
第四日	全	五斤迄放鳩	全
第五日	全	五斤迄放鳩	全
第六日	全	五斤迄放鳩	全
第七日	全	五斤迄放鳩	全
第八日	全	五斤迄放鳩	全
第九日	全	五斤迄放鳩	全
第十日	全	五斤迄放鳩	全
第十一日	全	五斤迄放鳩	全
第十二日	全	五斤迄放鳩	全
第十三日	全	五斤迄放鳩	全
第十四日	全	五斤迄放鳩	全
第十五日	全	五斤迄放鳩	全
第十六日	全	五斤迄放鳩	全
第十七日	全	五斤迄放鳩	全
第十八日	全	五斤迄放鳩	全
第十九日	全	五斤迄放鳩	全
第二十日	全	五斤迄放鳩	全
第二十一日	全	五斤迄放鳩	全
第二十二日	全	五斤迄放鳩	全
第二十三日	全	五斤迄放鳩	全
第二十四日	全	五斤迄放鳩	全
第二十五日	全	五斤迄放鳩	全
第二十六日	全	五斤迄放鳩	全
第二十七日	全	五斤迄放鳩	全
第二十八日	全	五斤迄放鳩	全
第二十九日	全	五斤迄放鳩	全
第三十日	全	五斤迄放鳩	全
第三十一日	全	五斤迄放鳩	全
第三十二日	全	五斤迄放鳩	全
第三十三日	全	五斤迄放鳩	全
第三十四日	全	五斤迄放鳩	全
第三十五日	全	五斤迄放鳩	全
第三十六日	全	五斤迄放鳩	全
第三十七日	全	五斤迄放鳩	全
第三十八日	全	五斤迄放鳩	全
第三十九日	全	五斤迄放鳩	全
第四十日	全	五斤迄放鳩	全
第四十一日	全	五斤迄放鳩	全
第四十二日	全	五斤迄放鳩	全
第四十三日	全	五斤迄放鳩	全
第四十四日	全	五斤迄放鳩	全
第四十五日	全	五斤迄放鳩	全
第四十六日	全	五斤迄放鳩	全
第四十七日	全	五斤迄放鳩	全
第四十八日	全	五斤迄放鳩	全
第四十九日	全	五斤迄放鳩	全
第五十日	全	五斤迄放鳩	全
第五十一日	全	五斤迄放鳩	全
第五十二日	全	五斤迄放鳩	全
第五十三日	全	五斤迄放鳩	全
第五十四日	全	五斤迄放鳩	全
第五十五日	全	五斤迄放鳩	全
第五十六日	全	五斤迄放鳩	全
第五十七日	全	五斤迄放鳩	全
第五十八日	全	五斤迄放鳩	全
第五十九日	全	五斤迄放鳩	全
第六十日	全	五斤迄放鳩	全
第六十一日	全	五斤迄放鳩	全
第六十二日	全	五斤迄放鳩	全
第六十三日	全	五斤迄放鳩	全
第六十四日	全	五斤迄放鳩	全
第六十五日	全	五斤迄放鳩	全
第六十六日	全	五斤迄放鳩	全
第六十七日	全	五斤迄放鳩	全
第六十八日	全	五斤迄放鳩	全
第六十九日	全	五斤迄放鳩	全
第七十日	全	五斤迄放鳩	全
第七十一日	全	五斤迄放鳩	全
第七十二日	全	五斤迄放鳩	全
第七十三日	全	五斤迄放鳩	全
第七十四日	全	五斤迄放鳩	全
第七十五日	全	五斤迄放鳩	全
第七十六日	全	五斤迄放鳩	全
第七十七日	全	五斤迄放鳩	全
第七十八日	全	五斤迄放鳩	全
第七十九日	全	五斤迄放鳩	全
第八十日	全	五斤迄放鳩	全
第八十一日	全	五斤迄放鳩	全
第八十二日	全	五斤迄放鳩	全
第八十三日	全	五斤迄放鳩	全
第八十四日	全	五斤迄放鳩	全
第八十五日	全	五斤迄放鳩	全
第八十六日	全	五斤迄放鳩	全
第八十七日	全	五斤迄放鳩	全
第八十八日	全	五斤迄放鳩	全
第八十九日	全	五斤迄放鳩	全
第九十日	全	五斤迄放鳩	全
第九十一日	全	五斤迄放鳩	全
第九十二日	全	五斤迄放鳩	全
第九十三日	全	五斤迄放鳩	全
第九十四日	全	五斤迄放鳩	全
第九十五日	全	五斤迄放鳩	全
第九十六日	全	五斤迄放鳩	全
第九十七日	全	五斤迄放鳩	全
第九十八日	全	五斤迄放鳩	全
第九十九日	全	五斤迄放鳩	全
第一百日	全	五斤迄放鳩	全

第二章 夜間飛行訓練實施概要

本年三年度夜間飛行訓練計畫之基本方針、龍經過去成績ヲ以テ、
 所定初年度ノ訓練ヲ終了セリ、

一 經過

一 準備作業

本年五月下旬自備食糧並ニ器材準備同時ニ横須賀航空隊ニテ
 解任シタル仔鳩四羽ヲ令鳩舎ニ收容常備常鳩失ニ在リ配シ
 直ニ訓練ニ着手シ五月同ニテ完成、尔後夜間飛行トシテ基本訓練
 ヲ課シ約四週同ニシテトウゾクノ出入ヨリ昼間並ニ暮曉飛行
 訓練ヲ完了ス、

此ノ間約十新ノ四圍ニ昼間放鳥訓練ヲ行ヒタリ、又次期間ヨリ夜間
 給餌ヲ行フ、

二 夜間通信訓練

基本訓練完了後(訓練ニ着手後約一月)ノ夜間通信訓練ヲ
 開始セリ、本訓練ハ先豫定地矣ニテ、昼間放鳥ヲナシ、飯舎鳩
 ヲ函ビ各地ニ輸送シ、放鳥ヲ行フ如クナリ、此ノ時機以後昼間
 放鳥訓練又ハ出舎後概ニ午後三時頃ヨリ、舍内ヲ暗黒トナシ

成績(別表参照)

日中一部ヲシテ夜間ニ對スル擬習ヲナスト共ニ鴉ノ休養ヲ兼セシメ
 訓練ハ一料附近ノ四圍ヨリ漸次躍進シテ北ハ東京府下甲野
 (甲五料)南ハ三崎(三料)迄ニ房州保田(二七料)西ハ大磯(三料)
 ニ到リ更ニ補足訓練トシテ横濱霞空路ニ當ル松戸我孫子
 等ニテ日没前ヨリ夜間ニ至ル昼夜兼行飛翔ノ特別訓
 練ヲ試ミテ初年度ノ通信訓練ヲ終了シ、尔後蕃殖
 並ニ夜翔性保持ニ對スル研究ヲ續行シ次年度ノ訓練ニ備ヘ
 タツアリ

一 今因夜間飛トシテ訓練シタルモノハ悉ク昨春續須賀航空隊飛
 テ孵化シタル一番仔又ハ二番仔ニシテ發育良好ナリシニ孵化三月月
 以上ノ早晚アリシヲ以テ初期訓練ニハ自ラ整ヘテ練習指導者ハ
 大ニ苦心セリ然レ共掌鴉失ノ嚴身努力ニ依リ訓練致ヨリ暮
 曉飛翔終了ヲ極メテ順調ニシテ且又不斷消毒ニシテ勵行セ
 シ結果一羽モ病鴉ヲ出サズ此ノ期間ニ於ケル放鴉訓練並ニ暮
 曉飛翔ノ成績ハ概シテ良好ニシテ殆ンド整一ナル基礎賜リ得
 タリ只性質ニ於テ夜間飛トシテ不適ナルモノ四羽ハ之ヲ淘汰セリ

三所見

一、夜間通信訓練の概、不順調に進行し殊に二十期以下に於ける
 帰巢成績頗る頗る優良にシテ翌朝帰巢率八十対一に以内ニ
 アリテ後距離躍進ト氣候等、場体ニ及ボス影響に依リテ
 所期成績ヲ得ナリシモ尚東京及中野、放鳩ニ於テ過半數
 當夜斂念ヲ得タリ、松戸、我孫子等ニテ行ヒタル補足訓練、
 成績、頗る優良にシテ日没ニ迫リテ放チタル鳩ハ僅カニ一二を除
 ク外悉ク當夜斂念セリ夜間飛翔速力ハ通信訓練ノ初
 期ニ於テハ概シテ昼間ニカルモ中期以後ニ於テハ殆ト遜色ナシ
 失踪率ハ訓練回数(五回至十回)ニ比シ割合ニ小ニシテ本訓練
 期間中、十一羽ニ過ギナシ暗夜飛翔ノ結果、殊に大演習ニ便中
 中、餓死ニ於ケル管理ノ缺陷等ニ依リ更ニ八羽ノ傷害鳩(内六羽死亡)
 可成リ別ニ四性病死鳩ニ羽ヲ除キテ斯年度訓練終了期ニ於テ
 二十羽ノ既訓練鳩ヲ保有スルヲ得タリ(當初收容鳩數四十四羽減四羽)
 二、夜間通信訓練の概、不順調に進行し殊に二十期以下に於ける
 三、夜間通信訓練の概、不順調に進行し殊に二十期以下に於ける

夜間通信訓練の概、不順調に進行し殊に二十期以下に於ける
 考究せられハカラス茲ニ初年度訓練の結果より得タル事項を簡
 録ニ將來、研究ニ資セントス。

能力

今回ノ研究ニ依リテ得タル結果ヲ綜合スルニ仔細ヲ以テスル夜
 間通信ハ初年度ニ於テ五十軒附近ニテハ充分可能性ヲ有シ
 若シ方向ヲ決定シテ行フトキハ七十軒附近ヲ延長スルヲ得ヘシ
 既訓練鳩ノ通信距離ニ就テハ今後ノ研究ニ俟タサルベカラ
 サルモ大凡百軒附近ヲテハ可能ナルヘシト信ス、夜間飛翔速力
 ハ昼間鳩ニ比シ數テ遜色ナキノミナラス夜間鳩ツレテ昼間放
 鳩スル時ハ一般ニ帰巢成績甚ク優良ノヲ是レ訓練ノ反覆ト
 密度ニ依リ地勢ヲ熟知スルミナラス夜間鳩ノ昼間帰巢ハ
 甚ク容易ナルモノ也、乃チ碼頭航路隊ニ於ケル夜間鳩ノ
 昼間飛翔ニ係ル成績ハ殆ンド五十軒時以上ナルミナラス
 土浦放鳩ニ於ケル同隊昼間優良鳩ト夜間鳩トノ競飛ニ於テ
 殆ント全鳩力昼間鳩ニ劣ラサル成績ヲ得タルニ徴スルモ推定スル
 ヲ得ヘシ、
 明暗度ト能力トノ關係ハ尙充分研究スヘキ問題ナレトモ一般
 ニ暗ヨリ明ニ於テ良好ナルコト勿論ナリ然レトモ月影又ハ他ノ光
 芒(市街等)ト鳩ノ帰還方向トハ深キ關係ヲ有スルモノ也、
 (四)

(一)

敵タタル月夜必スレモ最良結果ヲ得ルハ斷定ニ難ク實験ニ
徴スルニ歸還方位ニ目影又ハ他ノ光芒ヲ認ムルカ或ハ月夜ニテ
薄雲ニ蔽ハレタル場合、如キハ一層歸巢ヲ確實ナラシムル傾向
飼育管理並ニ雜件ト
飼育法ハ昼間鳩ノ如ク簡單ナラス又放鳩訓練ニアリテハ昼間鳩
ニ比シテ一般ニ密度ヲ要シ基本訓練モ亦一層嚴密ニ施行スルニ非サ
レハ効果ヲ得ルコト難シ

訓練中ノ失蹤率ハ比較的小ナルニ被傷害率ハ相當ニナリ
殊ニ鳩舎附近ノ電線ニ一般ノ顧慮ヲ要スレ夜間鳩ト雖モ
暗夜飛翔ニ耐ユル視力ヲ有スルモノニアラスレ鳩特有ノ方向感
ヲ勵發シテ遂ニ習慣性ヲ作爲スルモノナレバナリ從テ既訓練鳩
ニ對シテ夜翔性保持、増進、遺伝等ニ就テハ特ニ研究スルニ主要
事項ニシテ之レカ完結ヲ告グルノ日ハ臆テ使鳩用途上或程
度ノ革命命ヲ見ルノ秋ナルヘキカ、

放鳩訓練要スル經費ハ等距離ニ對シテ昼間鳩ノ約ニ倍乃至
三倍ヲ要スヘキ鳩飼育上ヨリ見ルハ些少ノ問題ナリ蓋シ界
材、飼料等ニ異ルトコトナリ而テヨリ訓練モウチタルモ昼夜共ニ用

途ニ應ジ得ヘケレバアリ、
 要之夜間購銅育ハ一見甚タ難事ノ如クニ考ヘラレル也然管理法通
 切ルハ敢テ難問題ニアラス要ハ設備ノ完全ト丹精ナル飼育
 者ヲ得ルニアリ、

月日	回数	放鳩地	距離	種	月鈴	放鳩数	級数	最人	最力	望期	事故	備考
大正五年 六月三日	一	夏島	一	B	二九	四四	四一	一〇リ	米 〇リ	三		日没後約一時間より放鳩 放鳩法各個(必不全)
一	一	北條内	一	B	三〇	四四	四〇	一〇リ	九	四		不適鳩田羽淘汰
二	二	公預	一五	B.C	一	四四	四〇	五〇リ	一三	四		昼間遠見を放鳩
三	四	金澤	三	C	二	四〇	三七	五〇リ	五六	三		夜同上記を放鳩
四	五	公預	三	B.C	五	四〇	二八	四二	四四	一		
七	六	堀田	五	C	六	四〇	三一	一五リ	三九	七	二	
八	七	昭間	五五	B.C	七	三八	三二	一六五リ	四〇	五		
一〇	八	谷津	五	C	九	三八	三六	一六六リ	六六	二		
二	九	(海岸)	七	B.C	一〇	三八	三三	一七五リ	六八	三	二	
四	一〇	杉田	九	B	一三	三六	三三	一五〇リ	一五五	四		
一七	一一	根岸	一二	B.C	天	三六	三二	九六	八〇	四		

二	元	二	五	八	二	元	八	五	二	二	二	八
西大磯	川崎	茅崎	大不林	蒲田	鶴見	大磯	大磯	茅崎	磯浜	藤澤	大船	鎌倉
三〇	三	二	三	二	二	三〇	〇	二	六	五	二	八
B.C	C.R	BC	B.C	BC	B	B	B	B.C	C	B	B	BC
二	元	二	五	一	三〇	八	二	二四	二	二	二〇	一七
二	元	二	三	三	三六	五	三	三	三	三	三	三
二四	二	二	一九	二六	三七	二五	二	九	二九	三〇	三四	三二
八	八	二	八七	六八	三七	一三	八四	六四	五七	八七	一〇	八五
三	八	一六	二七	三一	二四	八七	六九	三二	一四	二八	九二	四七
五	六	七	二	八	四	一〇	一	二五	五	四	一	四
										傷害 一	傷害 一	
			天候ト輸送ノ都合ニテ午後九時生一ヨリ放物ヤム			地勢ノ關係ト良好ナル放物地矣ヲ據テ是ルヲ得テ後方ニテ街ノ光景及映シ別處國難ノ状況ニテアリタリ且ツ大氣汚濁ニテ是處同多汚濁今八度ヲ示ス		凡速十四米ノ側風				
			前日成續不良ナリレリ以テ及再々施行ス									

IIII

月日	田火	放鴿地	距離	天候	月齡	放鴿數	級合	最大	最小	翌朝	事故	備考
八二九	五	走水	一〇	B.C	二九	三二	二七	八三	三六	四		
九八	六	三崎	二〇	B.C	九	三〇	三三	一三三	一六六	六	失	
一〇二	七	根岸	二二	B.C	二	二七	二七	四〇	三九〇	〇		
二六	八	房州	二七	C	二六	一一	二九	二六	一五	一五		
二七	九	横濱	一六	B.C	九	二四	二二	三八	二二	一		
一〇	三〇	東京	四三	B.C	二二	一六	八七	三八	三八	五	偶死	
一八	三	中野	四四	B.C	二二	一一	八三	七一	八	失	一	五羽集國
一八	三	兩國	四四	B.C	二八	一七	八五	七五〇	一			二羽集國
二二	四	松戸	五七	B.C	四	二〇	一九	一四	一〇	失	一	日没十五分前より放鴿 五羽集國
二六	五	我孫子	七八	C	八	二〇	一九	三七五	八〇	失	一	日没十分前より放鴿 五羽集國
二六	五	土浦	九八	C	一九	一八	一三	一〇八		翌日	一	昼間放鴿

第三章 夜間飛行の所見

研究に着手以來年子未だ幾く正確なる結論を下さば尚早ニ
 シル後ノ研究ニ俟ツヘキ事項多シト雖又既施訓練ノ結果
 コ綜合シ並ニ實用ノ成績ニ鑑照スルニ軍用トシテノ夜間飛行ノ價
 値ハ特ニ顯著當場スヘキ莫多ク例年施行ノ大小演習ニ際
 シ飛行機及ビ哨艦艇ヲ使用サル中殊ニ勤ヲ奏スルモノ概シ
 夜間飛行ニ多シ今年一月三日深夜夜間飛行ヨリテ中興氣象分台
 ヲリ翌朝ノ大降雪ナルヘキ天氣予報ヲ本隊ニ齎シ得タル如キ
 或ハ今年五月二十四日夕刻軍艦出雲ヲ御西航中ノ牧父宮
 殿下御使用ノ千鳥ノ中夜間飛行ノハ折板ノ大暴風雨ヲ
 冒シテ迄事ヲ當日初夜飯着使令ヲ令セシ如キコレが好適
 例ナリ

1112

固ヨリ固定機舎場ハ其本然の特徵ト持久的長所ニ因テ
 ハ夜間飛行ノ敢テ企及シ能ハル妙味ヲ有スルコトハ勿論ナレトモ
 用法上夜間飛行ヲ推奨スヘキ場合アルヲ云フナリ
 (一) 夜間飛行ノ昼夜間ニ於ケル能力

使用巨高標準

級還 精度 備

考

(一) 特徴

- イ 飛翔速力
- ロ 方向感及視力
- ハ 第1次の性質

一般ニ大ナリ
鋭敏ナリ

晝間ハ沈黙シテ夜間活躍ス

一般ニ夜間放蟻セラルルヲ強シト方向判定ハ為メ旋翔スルコト
ナリ蟻食ハ捷路ヲ直翔シ迂曲スルコト少シ故ニ度々短路
ヲ誤ランカ意外ノ遠距離ニ逸走スルコトアリ又ニ特性
ノ為メ障害物ニシテ急陽率カラス

(三) 長所ト短所

長所

- イ 晝夜兼用シ得ルコト即チ通信時刻ニ制限ナキコト
- ロ 特殊ニ完全ニ訓練ヲ經テ飛翔ハ一般ニシテ成績昼間固定蟻食

夜間	一ロロ料	大ロロ料	晝夜兼用ニシテ使用ニテ通信 成績妻リテ高ナリト得ル
晝間	二ロロ料	九ロ%	
晝刻線適切ナラハ洋上飛翔海溝横断難事ニテラス			

鳩ニ勝ル

ハ霧中・小雨中及ヒ硝煤烟中ノ使用ニ最モ適ス
短所

特記スヘキモノナレ但シ

(1) 訓練ニ対スル体力腦力ノ負擔量大ナルヲ以テ固定機舎鳩ノ

如ク通信使用距離ヲ大ナラシムルコトヲ得ルハ否又尚未解決ナリ

(2) 昼間固定機舎鳩ニ比シ訓練回數多ク且ツ夜間ノ業務ナルヲ

以テ從事者ノ勞力若ト經費トハ相當ニ大ナリ

(四)

夜間鳩舎採用ヲ利トスヘキ部隊

如上諸項ヲ綜合スルニ夜間鳩ノ出現ハ鳩通信ノ利用範圍

ヲ擴張セルモノニシテ戰闘ノ要求ニ恰當ニ軍鳩トシテ極メテ必要

ナルコトナリ唯今日迄ノ經驗ニテハ遠距離ニ適スルハ否又未ダ

斷言スルコト能ハサルモノアリ故ニ今日ノトコロニテハ遠距離通信ヲ

要スルコトサテ部隊ニ夜間鳩舎ヲ兼設又ハ夜間鳩舎ヲ置

間固定機舎ニ代用セハ通信時刻ヲ制肘セラルル利アリ

第四章 將來の研究

夜間飛行の研究要項（飼育、訓練、場合、型式、性能、概略等）ハ實驗を終つて良好ナル成績ヲ収メ得タル次第ナルハ尙其ノ使用限度等ニ對シテハ之レヲ將來ノ研究ニ俟タルヘカラス即チ其ノ主要ナルモノトシテ之レ

- （一）夜間飛行ノ實驗ニ於ケル能力限度ノ標準
- （二）夜間飛行ノ飛上能力ノ訓練方法
- （三）夜間飛行ノ保持力ノ訓練方法
- （四）夜間飛行ノ性能比較研究
- （五）夜間飛行ノ能力限度附近ノ放機訓練ニ於ケル晝夜兩飛行ノ能力比較

（一）夜間飛行ノ遺傳的研究
 （二）何ナル外貌特徴及秉性ヲ有スル飛行機ノ夜間飛行ニ適スルヤ
 （三）夜間飛行機ノ容易ナルシムル爲メノ訓練的施設

（終）